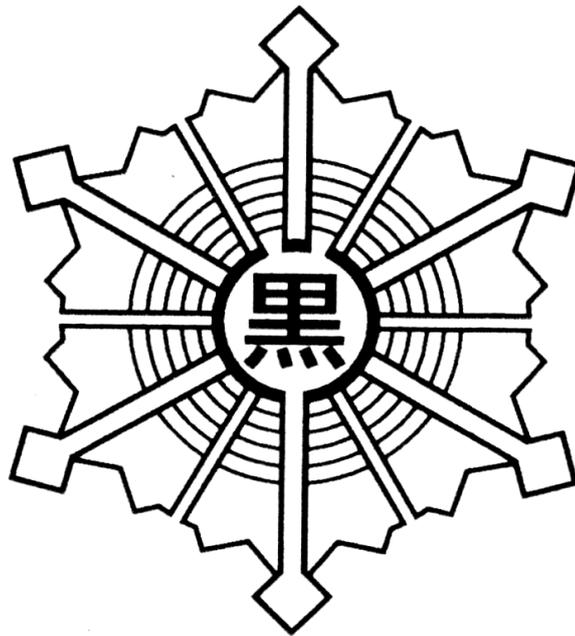


令和8年版

火災・救急・救助統計
(速報値)



黒川地域行政事務組合消防本部

目 次

【火災統計】

令和7年の火災概要	1～2
1. 火災総括表	3
2. 市町村別出火率と一世帯当たりの損害額	4
3. 用途別建物火災状況	4
4. 市町村別月別出火状況	5
5. 火災種別月別出火状況	5
6. 市町村別曜日別出火状況	6
7. 火災種別曜日別出火状況	6
8. 火災の出火時刻別状況	7
9. 出火原因別の出火件数	8

【救急統計】

令和7年の救急概要	9～11
1. 事故種別月別出場状況	12
2. 事故種別市町村別出場状況	13
3. 市町村別救急出場状況	14
4. 事故種別曜日別出場状況	15
5. 事故種別傷病程度別搬送人員状況	16
6. 事故種別収容所要時間別搬送人員状況	17
7. 管内管外別医療機関等搬送状況	17
8. 救急隊員の行った応急処置の状況	18
9. 年次別自動車専用道救急状況	19
10. P A連携出場状況	20
11. P A連携活動状況	20
12. 救命講習普及啓発活動状況	21
13. 年次別救命講習普及啓発活動状況	22

【救助統計】

令和7年の救助概要	23～24
1. 事故種別月別救助出場・活動状況	25
2. 事故種別市町村別救助出場・活動状況	26
3. 事故種別曜日別救助出場状況	26
4. 救出所要時間状況	27
5. 傷病程度別状況	27

令和7年の火災概要

令和7年中における火災の状況をみると、出火件数は29件で死者0人、負傷者4人発生している。損害額は42,599千円、建物焼損床面積267㎡、建物焼損表面積51㎡、建物焼損棟数18棟、り災世帯数13世帯、り災人員29人、林野の焼損面積は1aとなっている。

これを前年と比較すると、出火件数は3件の増加で、うち建物火災は前年比1件増加の13件、建物火災焼損床面積は減少しているが、建物火災焼損表面積、建物焼損棟数、損害額、り災人員は昨年より増加している。

1. 出火状況

出火件数は29件であり、12.6日（前年14.1日）に1件の割合で火災が発生したことになる。火災種別では、建物火災が最も多く13件（44.8%）、次いでその他の火災11件（37.9%）、車両火災4件（13.8%）、林野火災1件（3.5%）となっている。

出火件数を市町村別にみると、大和町が12件（41.4%）と最も多く、次いで富谷市が9件（各31.0%）、大郷町が6件（各20.7%）、大衡村が2件（6.9%）となっている。

2. 出火率

出火率（人口千人当たりの出火件数）をみると、管内平均は0.31であり、前年より0.03ポイント増加している。

これを市町村別にみると大郷町が0.82と最も高く、次いで大和町が0.43、大衡村が0.36、富谷市が0.17ポイントとなっている。

3. 損害額

火災による損害額は42,599千円で、前年と比較し20,367千円の増加となった。火災種別ごとに損害額をみると、建物火災が29,587千円（69.5%）で損害額のほとんどを占め、車両火災が4,835千円、その他の火災が8,177千円、林野火災が損害額なしとなっている。また、市町村別にみると富谷市が16,814千円で最も多く、次いで大和町が13,769千円、大郷町が8,791千円、大衡村が3,225千円となっている。それを一世帯当たりの損害額でみると、大郷町が2,969円で最も多く、次いで大衡村が1,493円、大和町が1,078円、富谷市が803円となっている。

4. 月別出火状況

月別にみると3月が5件（17.2%）で最も多く、次いで2・4月が各4件（各13.8%）、8・11月が各3件（各10.4%）、1・7・9・12月が各2件（各6.9%）、6・10月が各1件（各3.4%）となっている。

5. 曜日別出火状況

曜日別にみると、土曜日が7件（24.1%）で最も多く、次いで火曜日が5件（17.2%）、月・水・木曜日が各4件（各13.8%）、金曜日が3件（10.4%）、日曜日が2件（6.9%）となっている。

6. 出火時刻別状況

出火時刻別状況をみると「18時から20時」の時間帯が7件と最も多く、次いで「8時から10時」・「14時から16時」が各4件、「10時から12時」・「12時から14時」・「20時から22時」が各3件、「16時から18時」が2件、「2時から4時」・「4時から6時」・「22時から24時」が各1件となっている。

7. 出火原因

出火原因別では、その他が10件と最も多く、次いで電気機器・配線機器・排気管・ストーブ・火入れが各2件となっており、原因不明は5件であった。

【まとめ】

令和7年中の火災状況は、出火件数が29件で昨年と比較し3件の増加となった。損害額は前年比で20,367千円増加している。近年、防火対象物火災が増加傾向にあるため、防火対象物及び危険物施設の計画的な立入検査を実施するとともに、防火管理者等による自律的な防火管理体制の構築を図り、過去の火災事例を教訓とした危険要因の改善指導に努め、指導体制を強化していく。

火災原因は、一つの原因に偏ったものではなく、多種多様となっている。日本社会は、少子高齢化が加速しているが、管内も同様である。高齢者世帯の増加が社会問題化している中で、関係市町村、消防団員、女性防火クラブ員、地域包括支援センター等と連携して、火災予防の啓発、周知を図っていく。また、近年、防火対象物や危険物施設からの火災も増加していることから、ハード面は元よりソフト面に関しても指導を行い火災予防の向上を図っていく。

黒川地域は今後も企業進出が増加すると予想され、就業人口の増加傾向は続いていくものと思われる。このような状況は、火災や災害事故等の発生も複雑多様化し、大規模化することも十分に予想されてくる。そのため、各関係機関や外郭団体と協力のもと、防火研修会や自主防災訓練等をとおして、住宅における防火対策、防火対象物等における防火安全対策を徹底していく。また、昨年発生した大船渡市林野火災を受けて、林野火災注意報や林野火災警報の的確な発令等によって林野火災予防の実効性を高めることが必要であるとされたことを踏まえ、火災予防条例等の改正も実施され、より安心で安全なまちづくりに向けて、地域防災力の強化を目指していく。

1. 火災総括表

区分 市町村別	出火件数	火災種別				焼損棟数					焼損面積		
		建物	林野	車両	その他	計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	建物(m ²)		林野(a)
											焼損床面積	焼損表面積	
富谷市	9	6		1	2	11	1	1	4	5	152	48	
大和町	12	5	1	2	4	5			2	3	10	2	1
大郷町	6	1			5	1		1			105		
大衡村	2	1		1		1				1		1	
計	29 (26)	13 (12)	1 (1)	4 (6)	11 (7)	18 (15)	1 (5)	2	6 (3)	9 (7)	267 (321)	51 (15)	1 (9)

()内は令和6年

区分 市町村別	死傷者		り災世帯				り災人員	損害額(千円)				
	死者	負傷者	計	全損	半損	小損		計	建物	林野	車両	その他
大和町		2	3			3	4	13,769	8,691		1,114	3,964
大郷町		1						8,791	4,578			4,213
大衡村								3,225	2		3,223	
計		4 (2)	13 (4)	1 (2)	1	11 (2)	29 (21)	42,599 (22,232)	29,587 (20,985)		4,835 (952)	8,177 (265)

※損害額について建物火災1件調査中

()内は令和6年

2. 市町村別出火率と一世帯当たりの損害額

区分 市町村別	世帯数	人口	出火件数		損害額	
			件数	人口千人当たり 出火率	損害額 (千円)	一世帯当たり 損害額(円)
富谷市	20,947	52,485	9	0.17	16,814	803
大和町	12,775	27,880	12	0.43	13,769	1,078
大郷町	2,961	7,325	6	0.82	8,791	2,969
大衡村	2,160	5,527	2	0.36	3,225	1,493
計	38,843 (38,290)	93,217 (93,332)	29 (26)	0.31 (0.28)	42,599 (22,232)	1,097 (581)

※損害額について建物火災1件調査中

()内は令和6年

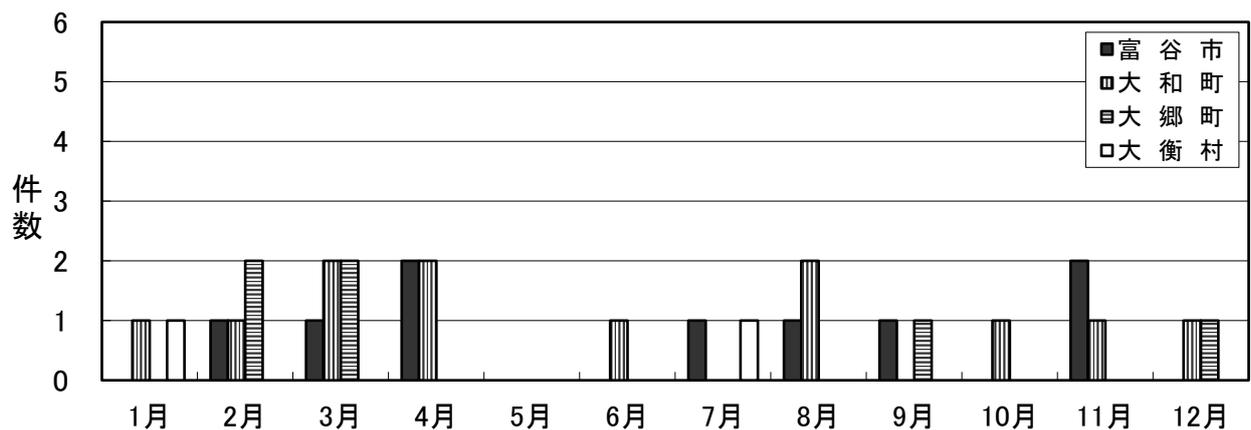
3. 用途別建物火災状況

区分 用途別	出火件数	焼損面積(m ²)		損害額(千円)
		床面積	表面積	
一般住宅 (併用住宅含む)	7	162	48	16,788
非住宅	1		2	25
防火対象物	5	105	1	12,774
計	13 (12)	267 (321)	51 (15)	29,587 (21,073)

※損害額について建物火災1件調査中

()内は令和6年

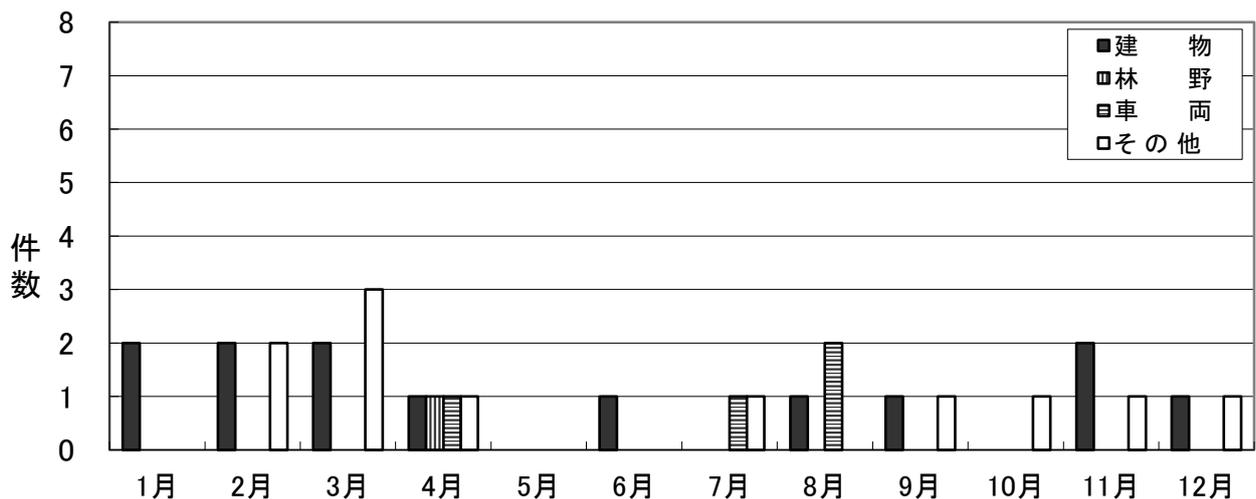
4. 市町村別月別出火状況



市町村別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
富谷市		1	1	2			1	1	1		2		9
大和町	1	1	2	2		1		2		1	1	1	12
大郷町		2	2						1			1	6
大衡村	1						1						2
計	2	4 (3)	5 (3)	4 (2)	(2)	1 (4)	2 (3)	3 (1)	2 (2)	1 (4)	3 (1)	2 (1)	29 (26)

()内は令和6年

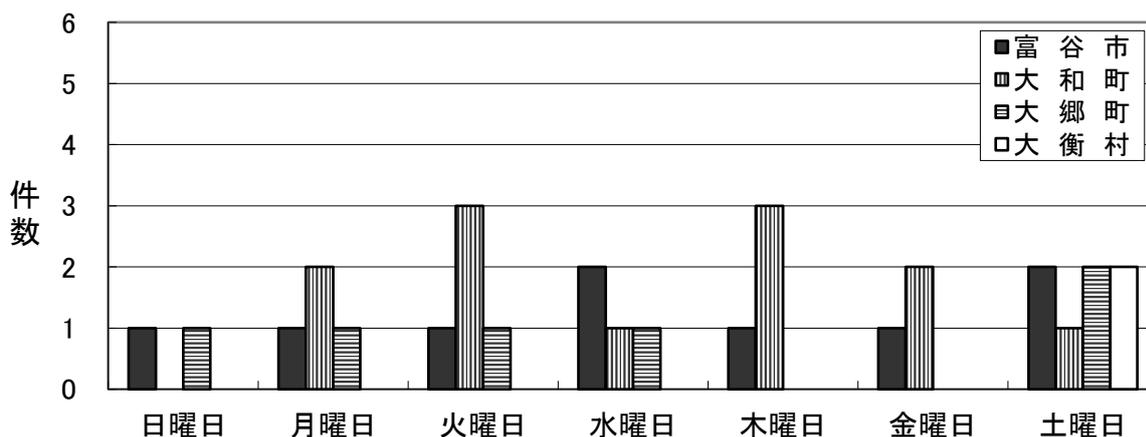
5. 火災種別月別出火状況



火災種別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
建物	2	2	2	1		1		1	1		2	1	13
林野				1									1
車両				1			1	2					4
その他		2	3	1			1		1	1	1	1	11
計	2	4 (3)	5 (3)	4 (2)	(2)	1 (4)	2 (3)	3 (1)	2 (2)	1 (4)	3 (1)	2 (1)	29 (26)

()内は令和6年

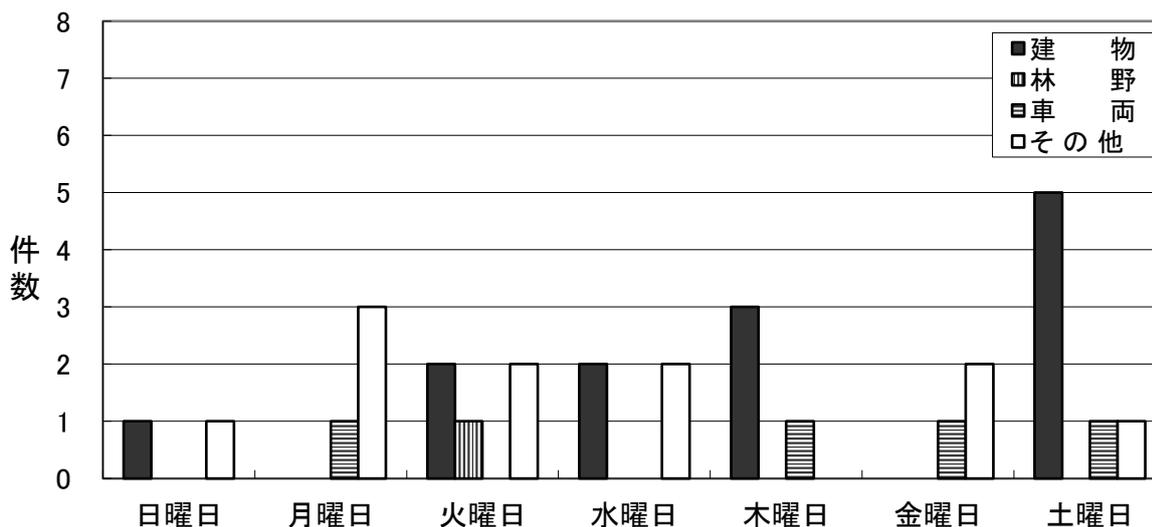
6. 市町村別曜日別出火状況



曜日別	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	計
富谷市	1	1	1	2	1	1	2	9
大和町		2	3	1	3	2	1	12
大郷町	1	1	1	1			2	6
大衡村							2	2
計	2 (2)	4 (6)	5 (6)	4 (5)	4 (3)	3 (3)	7 (1)	29 (26)

()内は令和6年

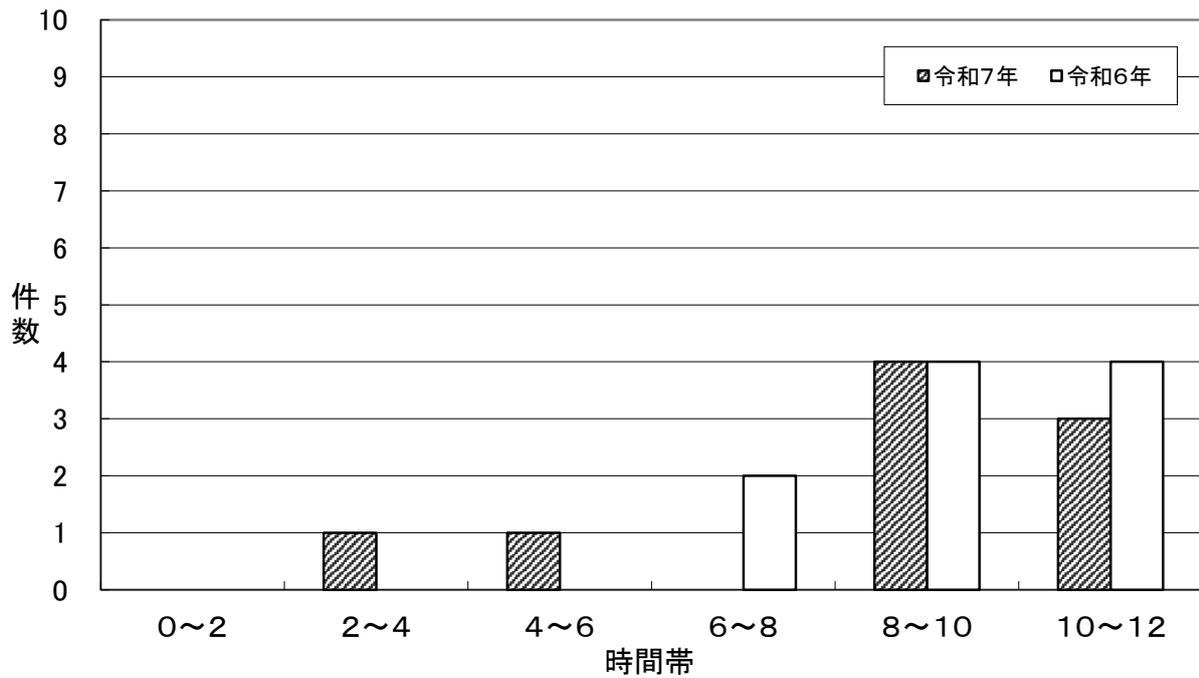
7. 火災種別曜日別出火状況



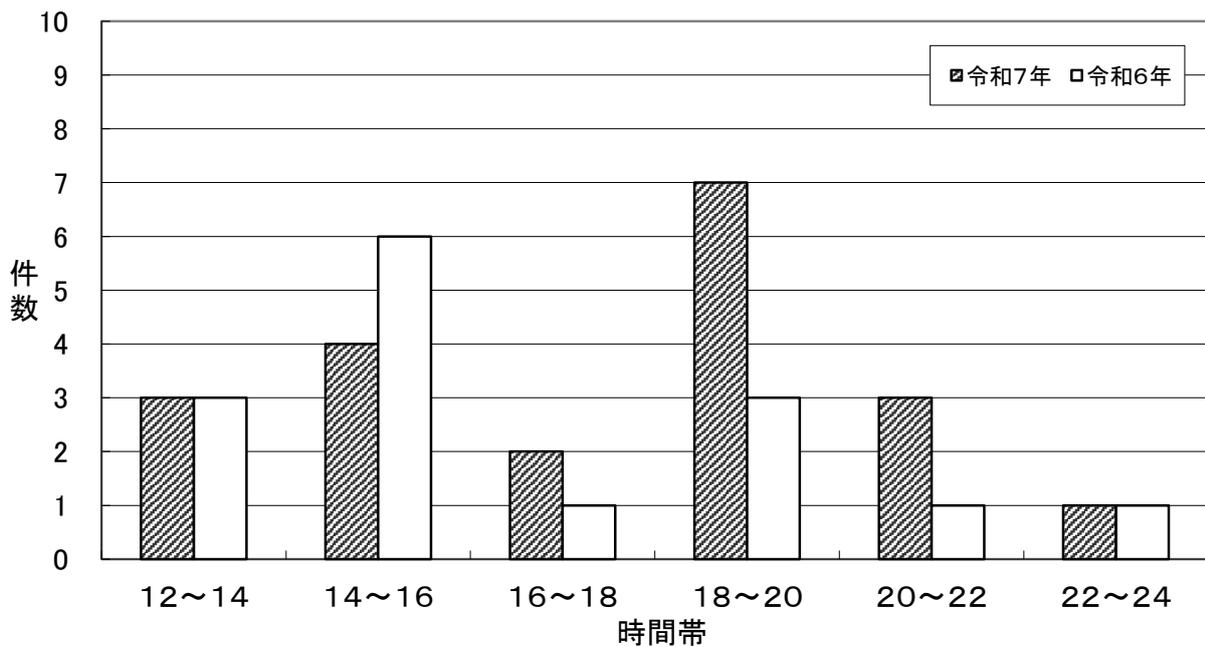
曜日別	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	計
建物	1		2	2	3		5	13
林野			1					1
車両		1			1	1	1	4
その他	1	3	2	2		2	1	11
計	2 (2)	4 (6)	5 (6)	4 (5)	4 (3)	3 (3)	7 (1)	29 (26)

()内は令和6年

8. 火災の出火時刻別状況



年別 \ 時間別	0~2	2~4	4~6	6~8	8~10	10~12
令和7年		1	1		4	3
令和6年				2	4	4



年別 \ 時間別	12~14	14~16	16~18	18~20	20~22	22~24
令和7年	3	4	2	7	3	1
令和6年	3	6	1	3	1	1

9. 出火原因別の出火件数

出 火 原 因	件 数
電 気 機 器	2
配 線 器 具	2
排 気 管	2
ス ト ー ブ	2
火 入 れ	2
た ば こ	1
こ た つ	1
こ ん ろ	1
放 火	1
そ の 他	10
不 明	5
その他の内訳:交通機関内配線1、火のついたゴミ2 その他の火花1、ハンドトーチ2 軸受1、炭火1、乾燥機1、煙火1	
計	29

令和7年の救急概要

令和7年中における救急状況をみると、出場件数4,656件(前年4,425件)で、搬送人員4,322人(同4,135人)となっている。これを前年と比較すると、出場件数で231件(5%)増加しそれに伴い搬送人員では187人(5%)増加している。

また、※PA連携による出場については316件(前年310件)と6件増加している。

※PA連携とは、救急現場において消防隊と救急隊が連携して救急・救護活動などを行うことの総称です。消防ポンプ車(Pumper)と救急車(Ambulance)の双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

1. 事故種別出場件数及び搬送人員

出場件数を事故種別ごとにみると、急病が3,033件(65%)と半数以上を占め、次いで一般負傷の632件(14%)、転院搬送の544件(12%)、交通事故の233件(5%)と続いており、これら4つの事故種別で全体の約95%を占めている。

また、搬送人員を事故種別ごとにみると、急病が2,809人(65%)と最も多く、次いで一般負傷の590人(14%)、転院搬送の543人(13%)、交通事故の224人(5%)などとなっている。

2. 月別出場件数

出場件数を月別にみると、8月が460件と最も多く(1日平均14.8件)、次いで1月の450件(同14.5件)、7月の438件(同14.1件)などと続いており、年間による1日平均12.8件の出場件数となっている。また、出場件数で最も少ない月は5月の316件(1日平均10.2件)である。

3. 市町村別出場件数及び搬送人員

出場件数を市町村別にみると、富谷市が2,279件(49%)で最も多く、次いで大和町が1,609件(35%)、大郷町が454件(10%)、大衡村が298件(6%)、自動車専用道及び管外が16件となっている。

また、搬送人員を市町村別にみると、富谷市が2,107人(49%)と最も多く、次いで大和町が1,496人(35%)、大郷町が419人(10%)、大衡村が285人(7%)、自動車専用道及び管外が15人となっている。

4. 曜日別出場件数及び搬送人員

出場件数を曜日別にみると、金曜日が702件と最も多く、次いで火曜日が698件と続いている。最も少ない曜日は、土曜日の611件となっている。

また、搬送人員を曜日別にみると、金曜日が658人と最も多く、次いで火曜日が657人と続いており、最も少ない曜日は、土曜日で552人となっている。

5. 傷病程度別搬送人員の状況

傷病程度別搬送人員の状況は、中等症が2,538人(59%)で最も多く、次いで軽症が1,356人(31%)、重症が389人(9%)※死亡が39人(0.9%)となっている。

これを前年と比較すると死亡では9人、重症で32人、中等症で113人、軽症で33人増加した。

※死亡：傷病者を救急車で医療機関に搬送し到着直後に医師が死亡と診断したものをいう。

6. 収容所要時間別搬送人員の状況

搬送人員を収容所要時間別にみると「30分～60分未満」が2,997人と最も多く、全搬送人員の69%を占めており、次いで「60分～120分未満」が1,119人、「20分～30分未満」が176人、「120分以上」が19人、「10分～20分未満」が11人となっている。入電から医療機関等まで収容に要する平均時間が52.7分となり前年と同数値となった。

7. 管内管外別医療機関等搬送状況

医療機関への搬送件数を管内管外別にみると、黒川管内が549件で、管内搬送率は12.8%であり、前年より僅かに減少した。管外への搬送件数は3,748件で前年より193件増加した。その内訳は仙台管内への搬送が3,457件で最も多く、全搬送件数の80.4%を占め、次いで大崎管内が207件、塩釜管内が70件などとなっており、依然として仙台管内医療機関への依存度が高まっている状況が続いている。

8. 救急隊員の行った応急処置の状況

応急処置対象人員は4,322人で最も多い処置はその他(体温測定含)の処置で4,227件(98%)である。応急処置の延べ件数は19,616件となっており、傷病者1人当たり4.5件の処置を行った。

応急処置を内容別でみると、その他(体温測定含)、血中酸素飽和度測定、血圧測定、心電図、心呼音聴取の順に多く、また心肺停止者に施す処置では、心肺蘇生が104件(うち自動心臓マッサージ器によるものは80件)、除細動が13件、救急救命士が医師の指示を受けて行える救命処置では、器具による気道確保56件、心肺停止前静脈路確保66件、心肺停止後静脈路確保56件、薬剤投与(アドレナリン)28件、ブドウ糖投与5件などとなっている。

9. 自動車専用道の救急状況

自動車専用道の救急状況をみると、出場件数は15件で搬送人員は14人となっており、うち東北自動車道は出場件数13件、搬送人員13人、北部道路は出場件数2件、搬送人員1人となっている。事故種別では、交通事故が13件、搬送人員13人、急病が2件、搬送人員1人となっている。

10. PA連携出場・活動状況

PA連携出場は316件となった。事故種別でみると、急病が200件で最も多く、次いで交通事故が55件、一般負傷37件、自損行為が15件などとなっており、急病と交通事故への出場が255件(81%)で大部分を占めている。

また、ポンプ隊等が行った応急処置別実施件数をみると、心肺蘇生40件、血中酸素飽和度測定が22件、血圧測定20件、気道確保3件、固定5件などとなっている。

11. 救命講習普及啓発活動状況

救命講習受講状況をみると、実施回数は延べ51回（前年63回）で、受講人員は1015人（前年162人減）となっている。実施回数減及び受講人員減については、昨年発生した大船渡市山林火災への職員派遣による3月期の開催中止が影響したものと思われる。受講人員数を月別にみると6月が288人で最も多く、次いで9月が222人、2月が94人と続いている。受講区分でみると、事業所398人と最も多く、次いでジュニア講習が344人と続いている。

平成6年から始めた救命講習会についてみると、回数は延べで1,653回を数え、延べ受講者数は41,289人に達した。

【まとめ】

令和7年中の救急出場件数は4,656件、搬送人員は4,322人で、昨年と比較し出場件数は231件増加、搬送人員も187人増加となり、前年比で出場件数5.2%、搬送人員4.5%の増加となった。一日平均12.8件で約11.3分に1件の割合で救急隊が出場し、住民23人に1人が救急隊によって搬送されたことになる。市町村別では、富谷市が170件（8%）、大和町は108件（7%）増加しており、大郷町は25件（5.5%）、大衡村は24件（8%）減少した。事故種別では運動競技、その他以外の全ての事故種別で増加となった。今後についても高齢化社会の進行及び近年の異常気象による熱中症患者の増加から、救急出場件数は増加する見通しであると考えられる。尚、昨年はマイナ救急令和7年度実証事業が令和7年10月1日より全国一斉に開始した。当本部も救急5隊が運用実施中である。10月～12月の実施結果については対象となった全搬送人員1,126名中、情報閲覧できたのは179名であった。主な閲覧対象外の理由（不搬送を除く）としては「提示なし・未携帯等」が約55%、「情報が十分だった」が約12%、「転院」が約11%、「緊急性あり・救急隊長判断」が約6%であった。又、現場滞在時間にあつては1～9月のマイナ救急開始前が約18.8分だったのに対して、マイナ救急開始後は約19.0分と明らかな差は認められなかった。しかしまだ日が浅く対象者数も少ないため、今後も実証を続けていく中で問題点を抽出し、改善を図りながら令和8年度の本格運用を目指し、地域住民への質の高い救急サービスを提供していきたい。

本来の救命を目的とした救急業務に向けては、仙台・黒川メディカルコントロール体制を基盤とし、「指導救命士」による救命処置の向上を目的とした、研修・教育訓練の充実、実践をとおしての隊員の技術や資質向上を図り、救急救命士及び救急隊員の育成を計画的に行っていく。また、PA連携活動やドクターヘリを含めた関係医療機関との連携を充実させ、医療機関収容所要時間の短縮に努め、迅速・的確な搬送体制の整備を今後も図っていく。更に、家庭・職場におけるバイスタンダーの普及啓発を引き続き推し進め、救急車到着までの『空白の時間』の傷病者管理、応急手当、救命処置がより高い確率で施され、救命率の向上が図れるよう住民と一体となった「安全・安心」な住みよい地域づくりを推進していく。

1. 事故種別月別出場状況

月別	事故種別 区分	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	そ	計	不 搬 送
		災	然 災 害	難	通 事 故	働 災 害	動 競 技	般 負 傷	害	損 行 為	病	院	の 他		
1	出場件数	1			14	2	1	52	1	3	324	48	4	450	53
	搬送人員				16	2	1	48	1	1	282	48		399	
2	出場件数	3	1	4	24	7	1	45		1	232	36	1	355	35
	搬送人員		1	2	20	7	1	42		1	212	36		322	
3	出場件数	3			18			56	1	3	235	50	5	371	27
	搬送人員	2			16			56	1	3	217	50		345	
4	出場件数	2		1	14	6	3	42		1	218	45		332	18
	搬送人員				12	6	3	41		1	206	45		314	
5	出場件数			1	16	4	7	48		5	197	36	2	316	19
	搬送人員				19	4	7	46		3	188	35		302	
6	出場件数	1			21	6	5	54	2	4	221	45	3	362	22
	搬送人員	1			23	6	5	47	2	3	213	45		345	
7	出場件数	1			23	17	6	55		4	282	49	1	438	24
	搬送人員				25	17	6	49		2	269	49		417	
8	出場件数	3			21	7	1	58	3	6	316	44	1	460	38
	搬送人員				17	7	1	54	2	4	294	44		423	
9	出場件数	1		1	15	7	7	45		5	233	41	1	356	28
	搬送人員				12	7	6	41		5	217	41		329	
10	出場件数				22	9	2	57		4	241	49	3	387	25
	搬送人員				21	9	2	55		4	223	49		363	
11	出場件数	2			22	5	3	58		3	262	52	3	410	37
	搬送人員				21	5	3	54		3	237	52		375	
12	出場件数	1			23	1	4	62	1	4	272	49	2	419	33
	搬送人員	1			22	1	3	57	1	3	251	49		388	
計	出場件数	18 (15)	1	7	233 (219)	71 (67)	40 (45)	632 (589)	8 (7)	43 (40)	3,033 (2,888)	544 (528)	26 (27)	4,656 (4,425)	359 (314)
	搬送人員	4 (2)	1	2	224 (212)	71 (67)	38 (42)	590 (544)	7 (4)	33 (30)	2,809 (2,709)	543 (525)		4,322 (4,135)	

()内は令和6年

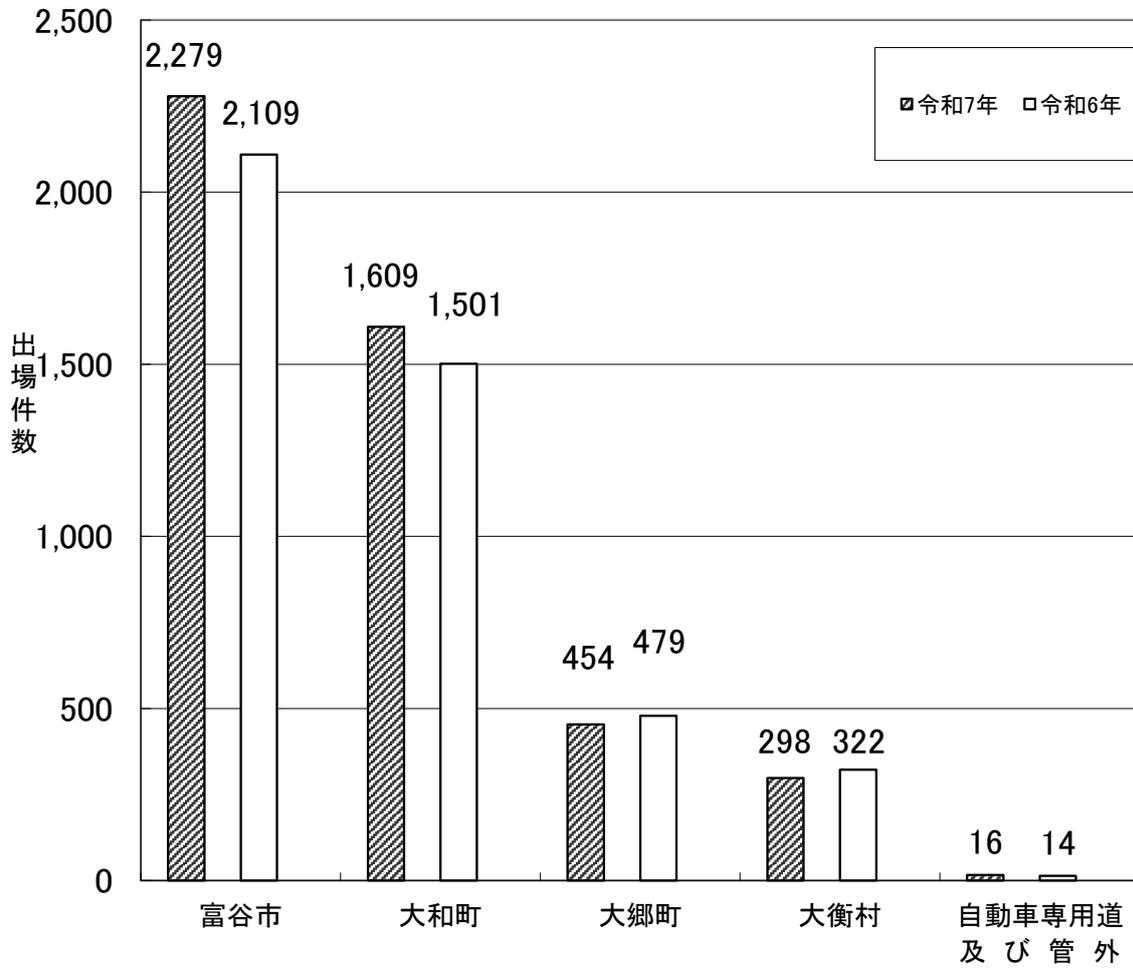
2. 事故種別市町村別出場状況

事故種別	市町村別 区分	富	大	大	大	自動車専用道 及び管外	計
		谷 市	和 町	郷 町	衡 村		
火 災	出 場 件 数	6	5	3	1	3	18
	搬 送 人 員	1	2	1			4
自然災害	出 場 件 数	1					1
	搬 送 人 員	1					1
水難事故	出 場 件 数		7				7
	搬 送 人 員		2				2
交通事故	出 場 件 数	88	87	27	22	9	233
	搬 送 人 員	85	79	24	22	14	224
労災事故	出 場 件 数	20	26	8	17		71
	搬 送 人 員	20	26	8	17		71
運動競技	出 場 件 数	17	19	3	1		40
	搬 送 人 員	17	17	3	1		38
一般負傷	出 場 件 数	323	193	73	43		632
	搬 送 人 員	299	179	71	41		590
加 害	出 場 件 数	3	5				8
	搬 送 人 員	3	4				7
自損行為	出 場 件 数	24	19				43
	搬 送 人 員	20	13				33
急 病	出 場 件 数	1,495	1,007	320	208	3	3,033
	搬 送 人 員	1,368	946	295	199	1	2,809
転 院	出 場 件 数	293	229	17	5		544
	搬 送 人 員	293	228	17	5		543
そ の 他	出 場 件 数	9	12	3	1	1	26
	搬 送 人 員						
計	出 場 件 数	2,279 (2,109)	1,609 (1,501)	454 (479)	298 (322)	16 (14)	4,656 (4,425)
	搬 送 人 員	2,107 (1,990)	1,496 (1,397)	419 (443)	285 (292)	15 (13)	4,322 (4,135)
不 搬 送		180 (130)	120 (111)	40 (39)	13 (32)	6 (2)	359 (314)

()内は令和6年

3. 市町村別出場状況

市町村別出場状況



市町村別区分	富谷市	大和町	大郷町	大衡村	自動車専用道及び管外	計
出場件数	2,279	1,609	454	298	16	4,656
搬送人員	2,107	1,496	419	285	15	4,322
人口	52,485	27,880	7,325	5,527		93,217
世帯数	20,947	12,775	2,961	2,160		38,843
総人口に対する搬送割合	26.4人に1人	19.9人に1人	16.9人に1人	19.0人に1人		22.6人に1人
総世帯に対する出場割合	9.8世帯に1件	8.3世帯に1件	6.2世帯に1件	6.6世帯に1件		8.7世帯に1件

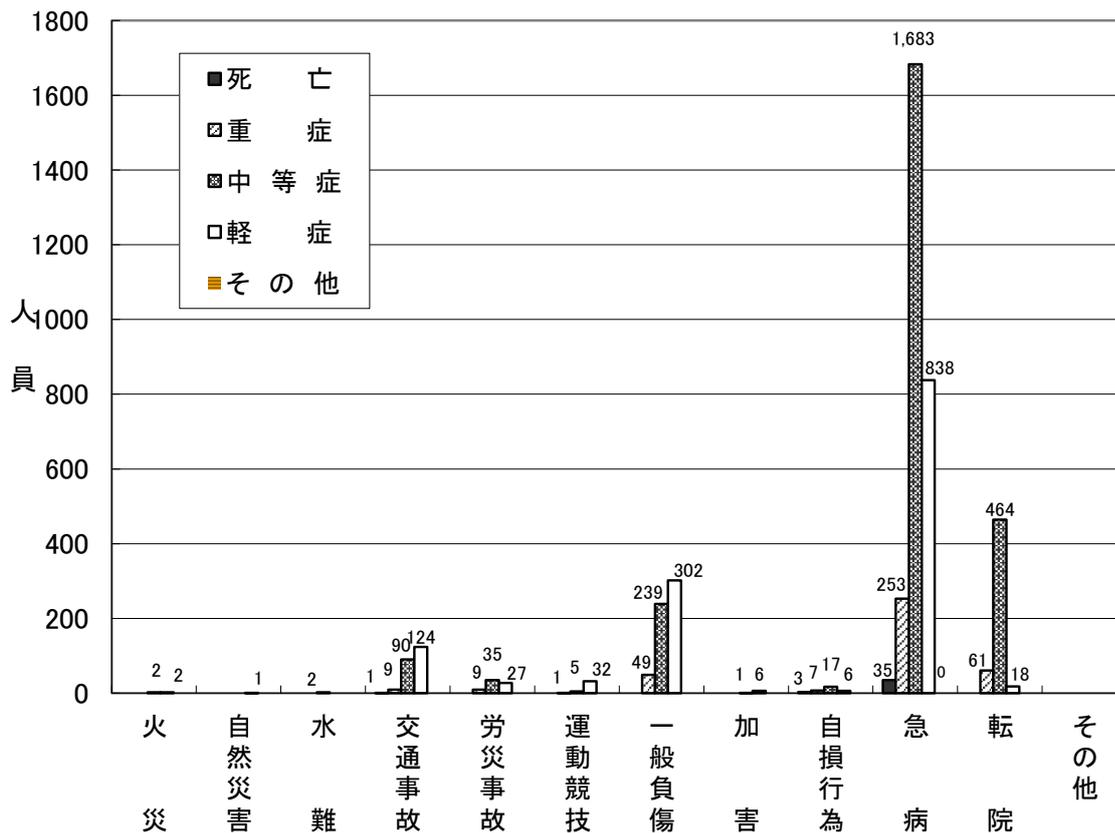
※ 人口・世帯数は令和7年12月末現在

4. 事故種別曜日別出場状況

事故種別	曜日別区分	日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	計
		日曜日	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	
火災	出場件数	1	1	2	3	4	1	6	18
	搬送人員			1	1	1		1	4
自然災害	出場件数					1			1
	搬送人員					1			1
水難事故	出場件数		1		1	2	1	2	7
	搬送人員							2	2
交通事故	出場件数	27	23	48	29	34	35	37	233
	搬送人員	30	19	54	26	33	29	33	224
労災事故	出場件数	4	15	11	15	10	9	7	71
	搬送人員	4	15	11	15	10	9	7	71
運動競技	出場件数	15	5	3	2	3	4	8	40
	搬送人員	14	5	3	2	3	4	7	38
一般負傷	出場件数	90	98	96	85	78	92	93	632
	搬送人員	84	92	90	81	73	86	84	590
加害	出場件数			2	3		1	2	8
	搬送人員			2	3		1	1	7
自損行為	出場件数	11	4	4	4	8	6	6	43
	搬送人員	9	3	3	3	6	5	4	33
急病	出場件数	499	433	430	427	431	422	391	3,033
	搬送人員	454	401	395	406	402	395	356	2,809
転院	出場件数	14	88	98	80	77	130	57	544
	搬送人員	14	88	98	80	77	129	57	543
その他	出場件数	4	3	4	7	5	1	2	26
	搬送人員								
計	出場件数	665 (616)	671 (665)	698 (659)	656 (609)	653 (612)	702 (653)	611 (611)	4,656 (4,425)
	搬送人員	609 (571)	623 (621)	657 (622)	617 (570)	606 (583)	658 (602)	552 (566)	4,322 (4,135)
不搬送		62 (50)	48 (51)	49 (39)	43 (40)	49 (31)	45 (55)	63 (48)	359 (314)

()内は令和6年

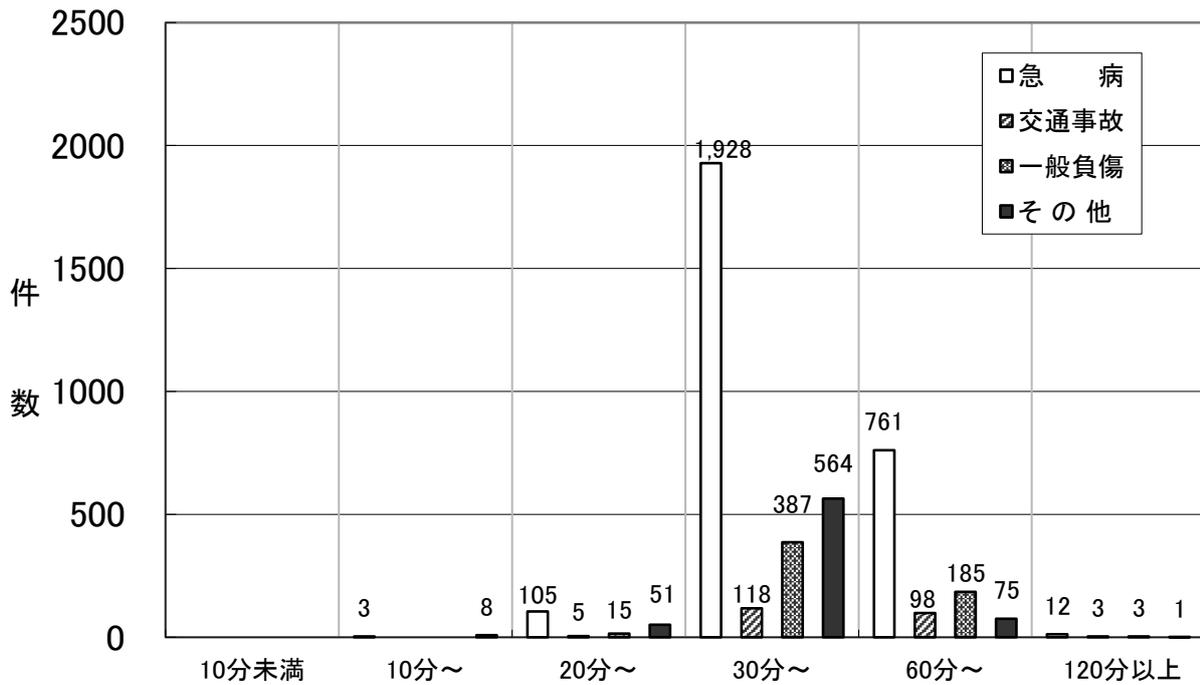
5. 事故種別傷病程度別搬送人員状況



事故種別 \ 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労災事故	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院	その他	計
死亡				1					3	35			39 (30)
重症				9	9	1	49		7	253	61		389 (357)
中等症	2		2	90	35	5	239	1	17	1,683	464		2,538 (2,425)
軽症	2	1		124	27	32	302	6	6	838	18		1,356 (1,323)
その他													
計	4 (2)	1	2	224 (212)	71 (67)	38 (42)	590 (544)	7 (4)	33 (30)	2,809 (2,709)	543 (525)		4,322 (4,135)

()内は令和6年

6. 事故種別收容所要時間別搬送人員状況



時間別 事故種別	入電から医療機関等に收容した時間別人員							計	收容平均 所要時間(分)
	10分未満	10分~	20分~	30分~	60分~	120分以上			
急病		3	105	1,928	761	12	2,809	52.7 (53.7)	
交通事故			5	118	98	3	224	59.8 (56.3)	
一般負傷			15	387	185	3	590	53.8 (57.7)	
その他		8	51	564	75	1	699	44.3 (43.1)	
計	0 0	11 (8)	176 (184)	2,997 (2,771)	1,119 (1,139)	19 (33)	4,322 (4,135)	52.7 (52.7)	

()内は令和6年

7. 管内管外別医療機関等搬送状況

区分	黒川管内	管外 (搬送件数全体の86.5%を占める)				小計	計
		仙台管内	塩釜管内	大崎管内	その他の地域		
搬送件数	549 (556)	3,457 (3,302)	70 (49)	207 (196)	14 (8)	3,748 (3,555)	4,297 (4,111)
搬送人員	553 (559)	3,474 (3,317)	71 (49)	210 (202)	14 (8)	3,769 (3,576)	4,322 (4,135)

()内は令和6年

8. 救急隊員の行った応急処置の状況

事故種別 応急処置種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計	令和6年
応急処置対象人員	2,809	224	590	699	4,322	(4,135)
止血	23	33	130	32	218	(198)
固定	6	80	39	22	147	(145)
人工呼吸	2				2	(6)
胸骨圧迫	1				1	(2)
心肺蘇生	87	2	6	9	104	(68)
うち自動心マッサージ器	70	2	5	3	80	(56)
酸素吸入	591	16	33	155	795	(727)
気道確保	114	2	11	13	140	(105)
うち経鼻エアウェイ						
うち異物除去	2		3		5	(3)
*うちラリゲル等	48	2	1	2	53	(40)
*うち気管挿管	1		2		3	(3)
保温・冷却	16	1	3	3	23	(29)
被覆	16	40	151	37	244	(211)
在宅療法継続	47		3	4	54	(49)
除細動	12		1		13	(6)
血糖測定	28			1	29	(28)
*心肺停止前静脈路確保	59	1	2	4	66	(43)
*心肺停止後静脈路確保	47	1	4	4	56	(33)
*アドレナリン投与	23	1	3	1	28	(14)
*ブドウ糖投与	5				5	(7)
血圧測定	2,603	219	535	681	4,038	(3,892)
心呼音聴取	1,201	101	95	215	1,612	(1,744)
血中酸素飽和度	2,724	223	582	687	4,216	(4,058)
心電図	2,522	127	359	590	3,598	(3,329)
その他	2,736	222	582	687	4,227	(4,072)
計	12,863 (12,387)	1,069 (987)	2,539 (2,429)	3,145 (2,963)	19,616	(18,766)

* 部分については、救急救命士が医師の指示を受けて行った救命処置 ()内は令和6年
 ※ 応急処置対象人員は不搬送傷病者を除く

9. 年次別自動車専用道救急状況

年 別	事 故 種 別	交通事故				急 病				一般負傷				そ の 他				計			
		出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員	出 場 件 数	搬 送 人 員				
昭和51年 から平成 19年まで	上り線	128	384	176	546	83	145	77	134	15	24	15	23	6	16	1	4	232	569	269	707
	下り線	256		370		62		57		9		8		10		3		337		438	
20年	上り線	3	6	2	5	2	5	2	5	1	1	1						6	12	5	11
	下り線	3		3		3		3										6		6	
21年	上り線		4		4	5	6	5	6	1	1	1		2	3			8	14	6	11
	下り線	4		4		1	1	1						1				6		5	
22年	上り線	4	4	3	3	1	2	1	2									5	6	4	5
	下り線					1	1	1										1		1	
23年	上り線	10	10	13	13	7	7	6	6									17	17	19	19
	下り線																				
24年	東北道	12	13	10	11	3	3	3	3					1	1	1	1	16	17	14	15
	北部道路	1		1														1		1	
25年	東北道	6	7	7	8	6	6	6	6					2	2			14	15	13	14
	北部道路	1		1														1		1	
26年	東北道	5	8	8	11	5	5	5	5					1	1			11	14	13	16
	北部道路	3		3														3		3	
27年	東北道	7	9	6	9	2	3	1	2	1	1	1	2	2	1	1	1	12	15	9	13
	北部道路	2		3		1	1	1										3		4	
28年	東北道	7	7	8	8		1		1					1	2			8	10	8	9
	北部道路					1	1	1						1				2		1	
29年	東北道	9	9	9	9	3	3	3	3					3	4			15	16	12	12
	北部道路													1				1			
30年	東北道	5	5	5	5	2	2	2	2					1	1			8	8	7	7
	北部道路																				
令和 元年	東北道	3	5	3	4	1	1	1	1					1	2			5	8	4	5
	北部道路	2		1										1				3		1	
令和 2年	東北道	1	3	2	4	2	2	2	2					3	3			6	8	4	6
	北部道路	2		2														2		2	
令和 3年	東北道	3	4	5	6	2	2	2	2									5	6	7	8
	北部道路	1		1														1		1	
令和 4年	東北道	7	10	10	11	1	2	1	2	1	1	1	1	1	2			10	15	12	14
	北部道路	3		1		1	1	1						1				5		2	
令和 5年	東北道	1	4	1	3	1	1	1	1									2	5	2	4
	北部道路	3		2														3		2	
令和 6年	東北道	7	8	8	9	1	2	1	2	1	1	1	2	2				11	13	10	12
	北部道路	1		1		1	1	1										2		2	
令和 7年	東北道	7	8	12	13	3	3	1	1					3	4			13	15	13	14
	北部道路	1		1										1				2		1	
計	東北道	488	508	665	682	197	201	182	186	29	29	28	28	40	45	6	6	754	783	881	902
	北部道路	20		17		4		4						5				29		21	

※平成22年から仙台北部道路開通により東北道上下線の区別から各自動車専用道路の出場件数、搬送人員を表示

10. PA連携出場状況

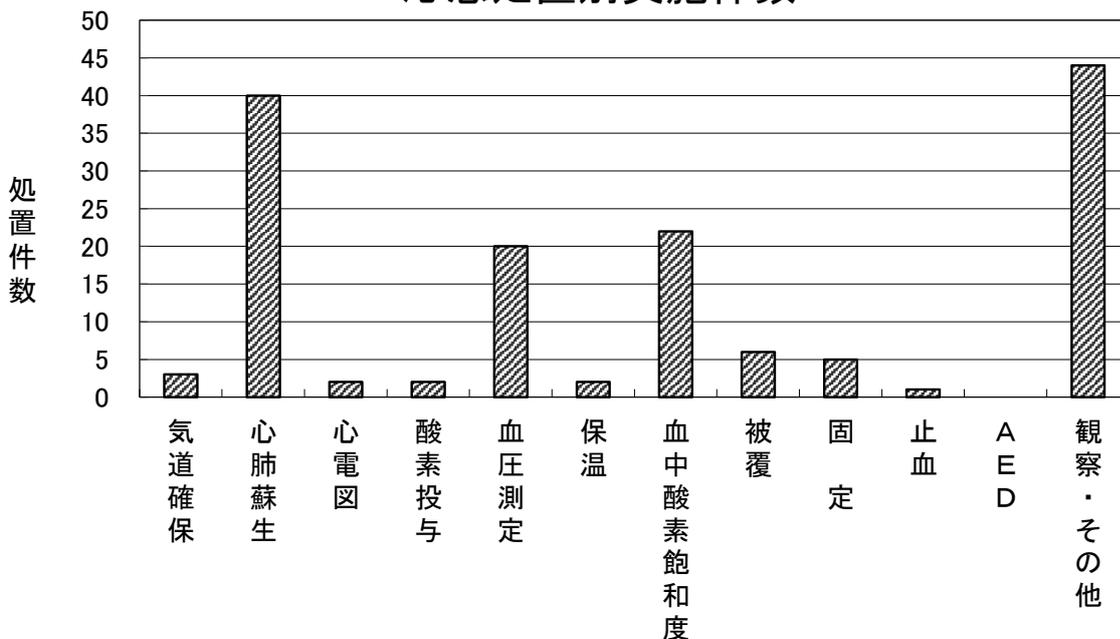
区分 市町村別	出場 件数	事故種別							出場基準別				
		急病	交通	一般負傷	自損行為	労働災害	運動競技	その他	計	CPA (心肺停止)	二次災害防止	隊長要請	その他
富谷市	109	64	15	17	10	1		2	109	53	16	15	25
大和町	110	72	20	10	5			3	110	55	19	9	27
大郷町	58	43	8	6		1			58	21	4	14	19
大衡村	33	21	7	4		1			33	13	9	1	10
自動車専用道 及び管外	6		5					1	6		6		
計	316 (310)	200 (194)	55 (61)	37 (39)	15 (8)	3 (3)	0 0	6 (5)	316 (310)	142 (108)	54 (51)	39 (24)	81 (127)

()内は令和6年

※PA連携とは、救急現場において消防隊と救急隊が連携して救急・救護活動を行うことの総称です。
消防ポンプ車(Pumper)と救急車(Ambulance)の双方の頭文字から「PA」と名前をつけたものです。

11. PA連携活動状況

応急処置別実施件数



応急処置種別	気道確保	心肺蘇生	心電図	酸素投与	血圧測定	保温	血中酸素飽和度	被覆	固定	止血	AED	観察・その他	計
実施件数	3	40	2	2	20	2	22	6	5	1	0	44	147

※ポンプ隊等が行った応急処置実施件数

12. 救命講習普及啓発活動状況

月別	区分 回数 人員	上級講習	講ジュニア	自治会	学校等	PTA	事業所	婦人防火 クラブ等	消防団	その他	講普及員	計
1	回数		1				1			1		3
	人員		50				8			10		68
2	回数						5			1		6
	人員						81			13		94
3	回数											
	人員											
4	回数						1			1		2
	人員						11			10		21
5	回数						2			1		3
	人員						43			6		49
6	回数		1		1		6	1	1	2		12
	人員		136		11		94	19	18	10		288
7	回数				3		2					5
	人員				59		33					92
8	回数				1		2			2		5
	人員				11		30			20		61
9	回数		2				1			3		6
	人員		158				19			45		222
10	回数	1					4					5
	人員	20					58					78
11	回数			1			1			1		3
	人員			19			7			2		28
12	回数						1					1
	人員						14					14
計	回数	1	4	1	5		26	1	1	12		51
	人員	20	344	19	81		398	19	18	116		1,015

※ 上級講習とは、8時間の救命の総合的な講習をいう。

※ ジュニア講習とは、中学生等を対象とした90～120分の短時間講習をいう。

※ 普及員講習とは、所属する事業所等で行う普通救命講習会で指導者となるための24時間講習をいう。

上記※以外は、3時間の普通救命講習をいう。

13. 年次別救命講習普及啓発活動状況

年別	区分		上級講習	講ジュニア	自治会	学校等	PTA	事業所	ク婦人クラブ等	消防団	その他	講普及員	計
	回数	人員											
H6~H19	回数				17	95	11	161	137	25	88		534
	人員				319	4,574	261	3,814	2,908	713	2,110		14,699
H20	回数				3	18	2	32	5	1	15		76
	人員				68	889	44	613	96	35	185		1,930
H20	回数				3	23		31	8	4	14		83
	人員				57	973		675	159	88	219		2,171
H22	回数		2	1	15	2	24	6	1	13			64
	人員		178	25	506	37	427	164	42	193			1,572
H23	回数	2	2	1	12		22	10	2	9			60
	人員	33	74	17	529		350	265	52	204			1,524
H24	回数	2		2	17		28	6	1	14			70
	人員	24		52	775		602	117	39	263			1,872
H25	回数	2		6	13		36	7		8			72
	人員	11		73	637		687	193		89			1,690
H26	回数	3	1	2	15		41	6	1	7	1		77
	人員	33	151	44	852		778	134	34	39	11		2,076
H26	回数	1	2		8	1	52	7	1	9			81
	人員	13	222		468	22	1,041	214	36	92			2,108
H28	回数		1	1	13		25	5	2	21			68
	人員		169	17	625		543	143	22	226			1,745
H29	回数	1	1	1	20		38	5	1	14			81
	人員	5	165	8	798		863	138	9	111			2,097
H30	回数	1	1		11	2	39	3		18			75
	人員	3	165		512	18	719	83		199			1,699
R元	回数	1	2	2	17		31	6		18			77
	人員	16	234	38	530		606	223		236			1,883
R2	回数	1			3		23	2		4			33
	人員	12			113		345	47		23			540
R3	回数	1					7			7	2		17
	人員	5					80			26	9		120
R4	回数	2		2	8		11			7			30
	人員	19		38	93		117			42			309
R5	回数	1	4		5		17	1		13			41
	人員	20	482		188		264	22		86			1,062
R6	回数	1	3		10		32	5		12			63
	人員	6	250		198		508	115		100			1,177
R7	回数	1	4	1	5	0	26	1	1	12			51
	人員	20	344	19	81	0	398	19	18	116			1,015
計	回数	20	23	42	308	18	676	220	40	303	3		1,653
	人員	220	2,434	775	13,341	382	13,430	5,040	1,088	4,559	20		41,289

令和7年の救助概要

令和7年中における救助活動の状況をみると、救助出場件数は53件、救助活動件数は30件、救助人員は34人となっており、前年と比較すると出場件数で5件、活動件数で4件、救助人員では6人増加した。

1. 事故種別月別救助出場・活動状況

救助出場・活動の状況を事故種別でみると、救助出場件数で最も多かったのは交通事故の26件（49.1%）、次いでその他の事故が11件（20.8%）、建物等による事故が9件（17%）となっている。

また、活動件数・救助人員をみると、交通事故は活動件数が13件で17人が救助され、水難事故、その他の事故がいずれも6件で同6人、建物等による事故が5件で同5人となっている。

次に救助出場件数を月別にみると、7月、8月、10月、11月が7件（各13.2%）と最も多く、次いで2月が5件（各9.4%）、1月、6月が4件（各7.5%）となっている。

また、活動件数・救助人員をみると、7月、11月が活動件数6件、救助人員が7人と最も多く、次いで8月、10月が4件で同4人、1月、6月がそれぞれ2件で同2人となっている。

2. 市町村別救助出場・活動状況

救助出場件数を市町村別にみると、大和町が24件（45.3%）で最も多く、次いで富谷市が19件（35.8%）、大郷町が5件（9.4%）、大衡村が4件（7.5%）となっている。

また、活動件数・救助人員をみると、大和町が13件で救助人員15人、富谷市が11件で同13人、大郷町が3件で同3人、大衡村が2件で同2人となっている。

3. 曜日別救助状況

救助出場件数を曜日別にみると、日曜日が10件（18.9%）で最も多く、次いで火曜日、木曜日が9件（各17%）、土曜日が8件（15.1%）となっている。

4. 救出所要時間別状況

活動件数のうち、救助完了した30件を時間別（覚知から救出までに要した時間）にみると、「10分～20分未満」が19件（63.3%）と最も多く、次いで「20分～30分未満」が5件（16.7%）、「60分～120分未満」が3件（10%）となっている。

5. 傷病程度別状況

救助し救急搬送した25人の内訳を医療機関等の初診時傷病程度別にみると、軽症が8人、中等症が10人、重症が4人、死亡が3人となっている。（不搬送とした9人は含まない）

【まとめ】

令和7年中の救助出場件数は53件で、救助活動件数は30件、救助人員は34人となり、前年比で出場件数、活動件数、救助人員のいずれも増加となった。

事故種別でみると、交通事故が前年に引き続き多く発生している。交通事故による救助は管内の交通量の増加などが要因と考えられ、事故車両内への閉じ込めは二次的災害の危険度も高く、より安全で迅速な救出活動が求められる。

また、今年例年に比べ水難事故が多く発生しており、水難事故発生時の出勤から救出完了までの迅速性が求められた。抽出された成果や課題を整理し訓練を重ね、現場活動に生かしていく。更に多種多様な機械による事故も想定され、いざ発生すれば重大事故につながる可能性が高いことから、機械の特性や構造の知識を習得し、各隊との連携を図り早急な救助方法を検討しておくなどの対応が求められる。

近年、救助事案も複雑多様化し救出困難事案も予測されることから、常日頃から全国で発生している事故事例や過去の事故事例を教訓として、潜在する危険性などを把握し、安全・確実な救出方法をより多く検討しておくことが重要である。また、近年の自然災害は地震・台風・集中豪雨・土砂災害・竜巻など様々であることから、それらの災害に対応するべく各関係機関との連携を強化し、早期の情報収集体制を確立するとともに、自然災害に対応するための知識・技術・装備の強化を推進している。

各災害に対して職員一人ひとりが危機管理意識を高め、災害現場に即応できる組織として、今後も高度な知識・技術等を習得し、救助体制の充実強化に向けて尽力していく。

1. 事故種別月別救助出場・活動状況

月 別	事故種別	火	交	水	自	事	よ	酸	破	そ	計
		災	通	難	然	機	建	ガ	裂	の	
			故	事	災	械	る	ス	事	他	
					害	に	物	事	故		
						よ	事	及	事		
						る	等	故	故		
						故	に				
1 月	出場件数		1				2			1	4
	活動件数		1							1	2
	救助人員		1							1	2
2 月	出場件数		3	2							5
	活動件数			1							1
	救助人員			1							1
3 月	出場件数		1				1				2
	活動件数		1								1
	救助人員		3								3
4 月	出場件数		2	1							3
	活動件数			1							1
	救助人員			1							1
5 月	出場件数			1						1	2
	活動件数			1							1
	救助人員			1							1
6 月	出場件数		1	1						2	4
	活動件数			1						1	2
	救助人員			1						1	2
7 月	出場件数		3				3			1	7
	活動件数		3				2			1	6
	救助人員		4				2			1	7
8 月	出場件数		3				3			1	7
	活動件数		1				3				4
	救助人員		1				3				4
9 月	出場件数		2	1							3
	活動件数			1							1
	救助人員			1							1
10 月	出場件数		4							3	7
	活動件数		2							2	4
	救助人員		2							2	4
11 月	出場件数		5	1						1	7
	活動件数		4	1						1	6
	救助人員		5	1						1	7
12 月	出場件数		1							1	2
	活動件数		1								1
	救助人員		1								1
計	出場件数		26	7			9			11	53
	活動件数		13	6			5			6	30
	救助人員		17	6			5			6	34
令和 6年	出場件数		18	1		1	16			12	48
	活動件数		11	1			4			10	26
	救助人員		13	1			4			10	28

2. 事故種別市町村別救助出場・活動状況

事故種別 市町村別		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	る 機 械 に 故 よ	よ 建 る 物 事 等 故 に	酸 ガ ス 事 及 故 び	破 裂 事 故	そ の 他	計
富谷市	出場件数		6	1			6			6	19
	活動件数		3	1			4			3	11
	救助人員		5	1			4			3	13
大和町	出場件数		11	6			3			4	24
	活動件数		5	5			1			2	13
	救助人員		7	5			1			2	15
大郷町	出場件数		5								5
	活動件数		3								3
	救助人員		3								3
大衡村	出場件数		4								4
	活動件数		2								2
	救助人員		2								2
自動車 専用道 管外	出場件数									1	1
	活動件数									1	1
	救助人員									1	1
計	出場件数		26	7			9			11	53
	活動件数		13	6			5			6	30
	救助人員		17	6			5			6	34
令和 6年	出場件数		18	1		1	16			12	48
	活動件数		11	1			4			10	26
	救助人員		13	1			4			10	28

3. 事故種別曜日別救助出場状況

事故種別 曜日別		火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	る 機 械 に 故 よ	よ 建 る 物 事 等 故 に	酸 ガ ス 事 及 故 び	破 裂 事 故	そ の 他	計
日曜日			5				3			2	10 (5)
月曜日			3	1			1			1	6 (8)
火曜日			3	1			3			2	9 (6)
水曜日			4	1						1	6 (12)
木曜日			3	2			2			2	9 (6)
金曜日			4							1	5 (4)
土曜日			4	2						2	8 (7)
計			26	7			9			11	53 (18) (1) (1) (16) (12) (48)

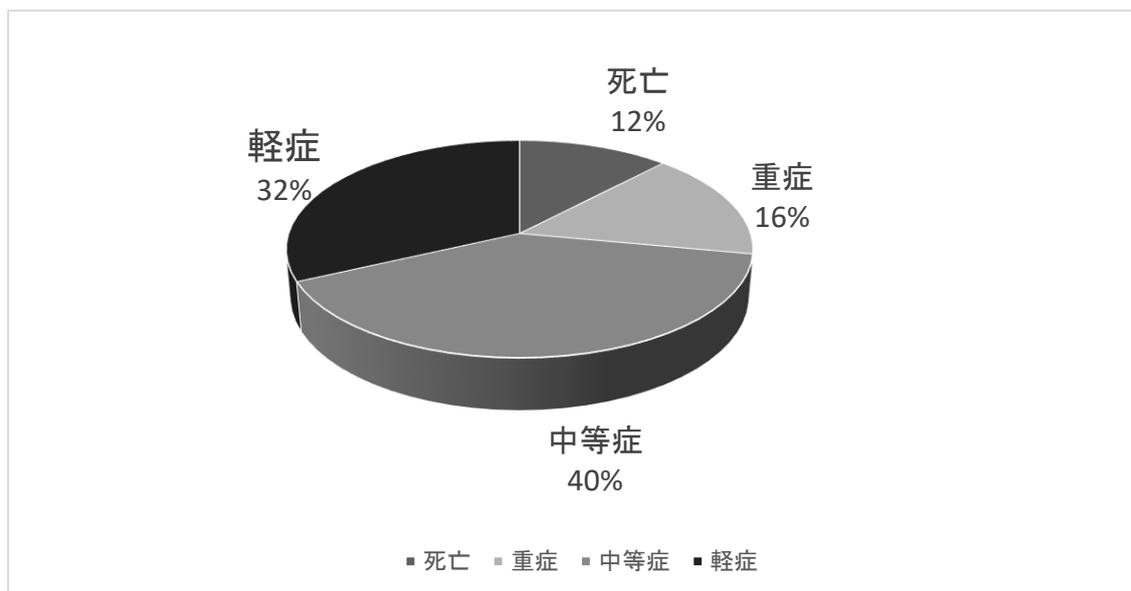
()内は令和6年

4. 救出所要時間状況

区分 事故種別	覚知から救出までに要した時間（件数）						計
	10分未満	10分～ 20分未満	20分～ 30分未満	30分～ 60分未満	60分～ 120分未満	120分以上	
火災							
交通事故	1	10	2				13
水難事故		1		1	3	1	6
自然災害							
機械による 事故							
建物等による 事故		3	2				5
ガス及び酸欠 事故							
破裂事故							
その他		5	1				6
計	1 (7)	19 (11)	5 (1)	1 (5)	3 (1)	1 (1)	30 (26)

()内は令和6年

5. 傷病程度別状況



傷病程度	死亡	重症	中等症	軽症	計
人員	3	4	10	8	25

※円グラフ・表には、救急隊にて不搬送判断した症例(9名)は含まず。
9名の内訳:救急隊にて「明らかに死亡」と判断⇒7名、救助者ケガ等なし⇒2名。